

氏名	三 宅 晴 夫
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1601 号
学位授与の日付	昭和60年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	先天性内反足に対する早期観血的治療法 — Attenborough 法および Imhäuser 法について—
論文審査委員	教授 寺本 滋 教授 折田薫三 教授 村上宅郎

学位論文内容の要旨

先天性内反足の治療方法を評価する目的で、岡山大学医学部整形外科学教室で、Attenborough 法により治療した17例24足（A群）および Imhäuser 法により治療した11例18足（I群）について追跡調査を行った。

1. 内反変形遺残はI群に比してA群に多くみられた。
2. 足関節可動域は両群に差がないがA群では背屈大、底屈小、I群では背屈小、底屈大であった。
3. Garceau, Lichtblau および Fredenhagen の評価基準で評価するとI群の方が良い評価をえた。
4. X線で距踵角, talo-1st metatarsal angle の比較結果ではI群の方がより良好であった。
5. 扁平距骨はA群に多くI群に少なくみられた。

以上より Attenborough 法よりも、Imhäuser 法がより良い治療結果がえられるものと考えられる。

論文審査の結果の要旨

本研究は、整形外科領域における先天性内反足に対する治療法について臨床的に研究したものであるが、早期観血的治療法としての Attenborough 法と、Imhäuser 法について検討した結果重要な知見を得たものであって、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。